

インパクト志向金融宣言

第18回ワーキングレベル会合

2026年1月23日 09:30～11:30

オンライン・リアル同時開催

インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

本日のアジェンダ

1. 定足数確認、議長選出(決議)
2. 新規加盟機関ご挨拶

1. (第1号決議事項)2026年度4月～5月暫定予算の件

2. (第1号報告事項)事務局報告事項
3. (第2号報告事項)各分科会からの報告
 - S指標分科会事例集
 - 「インパクト志向金融」枠組み検討会

4. (第1号審議事項)2026年度の主要施策について
 - 人材育成施策
 - 課題解決を起点とした取組

定足数確認・議長・副議長選出

- 定足数の確認
- 議長の選出(決議)
 - 運営規程第16条に基づき、**運営委員会委員長**の議事運営により、総会の議長を選出する。

新規署名機関の紹介

- 2月1日時点署名機関数は74社(署名金融機関67社、署名協力機関8社)

署名日	署名金融機関	署名協力機関
2月1日付	独立行政法人国際協力機構(JICA)	

* JICAは賛同機関からの切り替え

議案書(2026年1月23日WL会合)

【決議事項】

- (第1号決議事項)2026年度4月～5月暫定予算の件

【報告事項】

- (第1号報告事項)事務局報告事項
- (第2号報告事項)各分科会からの報告
 - S指標分科会事例集
 - 「インパクト志向金融」枠組み検討会

【審議事項】

- (第1号審議事項)2026年度の主要施策について
 - 人材育成施策
 - 課題解決を起点とした取組

- 予算は運営規程第15条8項に基づき、総会議決事項
- 2026年度予算全体は2026年4月の総会(WL会合)にて決議予定だが、その時点で予算年度が開始されているため、4月—5月分を暫定予算として今回決議するもの
- 収入については、会費は据え置き、2026年1月時点の署名機関数74(署名金融機関66、署名協力機関8)を想定すると、**29,930,000円**

想定収入		29,930,000
費目	暫定予算 (円)	備考
プロフェッショナルスタッフ人件費(業務委託)	2,600,000	*
事務局スタッフ人件費(業務委託)	900,000	*
外部委託費用	0	4月に決議予定
プログレスレポート作成費用	0	4月に決議予定
ウェブサイト維持費用	0	4月に決議予定
ウェブサイトコンテンツ作成/コンテンツ修正/掲載費用	0	4月に決議予定
IT関係(オンライン会議提供サービス、サーバー等)	0	4月に決議予定
分科会制作物作成費用	0	4月に決議予定
イベントサポート経費	0	4月に決議予定
消耗品費	0	4月に決議予定
旅費交通費—近距離交通費	1,000	4月に修正予定
支払手数料—銀行振込手数料	2,000	4月に修正予定
調査費 (業務委託費)	0	4月に修正予定
予備費	100,000	4月に修正予定
	3,603,000	

* 現状対価無償の事務局長・事務局長代理に報酬を払う場合には経営諮問評価委員会の諮問を経て水準を決定したうえで支出予定。

				4月時点想定	差分		
想定収入	30,065,000			27,630,000	2,435,000		
既入金済会費	28,331,000						
未受領会費	1,050,000	JCR/商工中金					
印税収入	684,000						
費目	修正予算 (円)	残額	8月末実績	当初予算 (円)	説明	1月時点想定	
プロフェッショナルスタッフ人件費(業務委託)	9,654,000	6,860,750	2,793,250	9,654,000		11,000,000	
事務局スタッフ人件費(業務委託)	5,346,000	3,122,972	2,223,028	5,346,000	* 署名機関数増加、会費管理・契約管理増加(業務量一定量増加を想定)	4,000,000	
外部委託費用	3,000,000	3,000,000	0	3,000,000	*年度後半に研修事業実施を想定	3,000,000	
プログレスレポート作成費用	2,500,000	2,500,000	0	2,500,000	*昨年より制作費用を削減を想定	2,500,000	
ウェブサイト維持費用	200,000	200,000	0	200,000		200,000	
ウェブサイトコンテンツ作成/コンテンツ修正/掲載費用	700,000	700,000	0	700,000	*コンテンツを新規作成し発信を想定	700,000	
IT関係(オンライン会議提供サービス、サーバー等)	400,000	172,229	127,771	300,000	*これまではSIIFが負担	300,000	
分科会制作物作成費用	1,000,000	547,000	253,000	800,000	*20万x4		
イベントサポート経費	600,000	597,453	2,547	600,000	当日受付・セットアップ等のサポート費用(2万円x2x15回)		
消耗品費	100,000	(23,610)	23,610				
支払報酬料-原稿料	20,000	(20,000)	20,000				
旅費交通費-近距離交通費	50,000	(13,782)	13,782				
支払手数料-銀行振込手数料	20,000	(6,765)	6,765				
調査費 (業務委託費)	150,000						
予備費	6,325,000			4,530,000		600,000	
	30,065,000	17,636,247	5,463,753	27,630,000		22,300,000	
	黒字:変更なし						
	青字:修正あり						
別会計 (イベント開催)							
(収入) 受領協賛金		573,620					
支出 支払会費(JOI)		360,000					
イベント関連経費 (JOI)		213,620					
		0					

事務局報告：収支の状況(2025.12月末)

収入(2025年4月～12月)

収入	2025.12末時点
会費収入	29,381,000
印税収入	684,000
イベント協賛金	673,620
受取利息	13,459
	30,752,079

今後支払い予定

- なし

未払い組織

- なし

収支の状況(2025.12月末)

支出(2025年4月～12月)

収入	30,752,079	(A)
----	------------	-----

会計小科目	支出金額
-------	------

業務委託費一人件費P	3,515,750
------------	-----------

業務委託費一人件費S	3,458,383
------------	-----------

通信費	400,791
-----	---------

広報費用－制作物作成費用	253,000
--------------	---------

WEB維持費用	40,000
---------	--------

消耗品費	36,810
------	--------

通信費-ウェブサーバー費用	13,200
---------------	--------

旅費交通費－近距離交通費	21,761
--------------	--------

支払手数料－銀行振込手数料	10,395
---------------	--------

会議費-イベント用飲料	2,547
-------------	-------

支払報酬料-原稿料	20,000	*R&Iに支払済
-----------	--------	----------

支払会費	360,000	*JOI会費 協賛金にて相殺
------	---------	----------------

イベント関連経費	213,620	*JOI共催イベント同時通訳飲食 協賛金にて相殺
----------	---------	--------------------------

総計	8,346,257	(B)
----	-----------	-----

収支差額	22,405,822	(A)-(B)	<=12月31日時点の口座残高と一致
------	------------	---------	--------------------

予算執行率 (B)/(A)	27.1%	(B)/(A)
---------------	-------	---------

IDFI 5周年／GIIN Japan1周年記念カンファレンス企画
～インパクト志向金融のこれまでと今後の5年間、そしてその先へ～

目的:「インパクト志向金融」のこれまでと今後の方向性(IDFI設立5周年、GIINJapan設立1周年)

- 日本においてインパクト志向金融宣言が設立され 5年がたつ2026年、これまでの歩みと日本におけるインパクトファイナンスの深化を振り返り、また、海外のインパクト業界をけん引するゲストとともに、日本のインパクトファイナンスの特徴・現状について発信する
- トランプ2.0時代において、世界が置かれているインパクトファイナンスの状況やこれまでの成果や課題を真摯に振り返り、今後の「インパクト志向金融」のあるべき姿とインパクトファイナンス業界が進むべき方向性を議論する。
- 実践者に対して役に立つ個別・ワークショップも同時に実施する。

対象オーディエンス

[全体セッション]

- インパクトファイナンスに関心はあるがまだ実践には至っていない金融関係者
- 海外の動向に関心がある企業関係者
- サステナビリティテーマに関心のある学生・若手社会人

[個別深堀セッション]

- インパクトファイナンスを実践しているが、課題感を持っている各金融機関(地銀、VCその他)
- インパクトファイナンスを受けている・受けたいと考えている企業関係者

日程・想定集客数

- 2026年9月頃を予定(海外ゲストが自費で来日可能な日程を調整)
 - 9月3~4日 or 14-15日(GIINアミット氏のシンガポール渡航前後を想定)
- 1日もしくは1.5日

＜プロボノサポーター一覧＞

お名前	肩書・ご経歴	備考
鈴木善博氏	元アレグロ社(米国の半導体会社)社長	ICEAに参加
香川陽子氏	元世界銀行・Veritas Global Communications 代表 長	S指標分科会に参加
佐藤真陽氏	一橋大学大学院博士課程	S指標分科会に参加
伊藤慎悟氏	株式会社LinqCore 代表取締役	地域金融分科会／AOAM分科会に参加

10月WL会合資料再掲

現 状

- 発行時期:1月
- 対象期間:10月～9月
- 残高:6月末(但し3月末が多い)
- 残高提出締切り:10月末

課 題

- 年度と対象期間が違うため、年度の成果との差異が存在
- 自走化後の予算年度が変更
 - 暦年から4月～3月へ
- 残高時点が複数存在

現 状

- 発行時期:7月か8月 < = 要検証
- 対象期間:4月～翌年3月(予算年度)
- 残高:3月末

*但し、事業報告(残高除く)は4月の年次総会にて承認(運営規程第15条第7項)

分科会	座長
地域金融	金井さん/鄭さん
VC	堤さん/秦さん
融資・債券	末吉さん/清水さん/橋爪さん
AO/AM	安間さん//宮本さん/坂本さん
ICEA	安間さん
ソーシャル指標	松原さん/石井さん
インパクト志向金融枠組み検討会	水口先生(事務局)

別資料

別資料

主催/共催イベント

日付	タイトル	登録人数 (リアル/オンライン)	動画
10月14日	アジアにおけるサーキュラーエコノミーを考える～最先端のファンド事例から～ Seminar on Circular Economy in Asia	79(オンラインのみ)	あり
10月22日	インパクトスタートアップの成長と 更なるインパクト創出への課題解決に向けて	119(42/77)	無
10月27日	アメリカにおける環境政策のゆくえとサステナブル・ファイナンスに与える影響(東京大学 /JSIF 御代田氏)	133(オンラインのみ)	あり
11月 4日	【署名機関向け】インパクト志向金融宣言を詳しく知る・参加するためのウェビナー② -1	18(オンラインのみ)	あり
11月 6日	【署名機関向け】インパクト志向金融宣言を詳しく知る・参加するためのウェビナー② -2	14(オンラインのみ)	あり
11月12日	長期的価値創造に向けて、企業と金融が取り組むべき方向性とは？(FCLT Global)	133(92/41)	あり
11月18日	JICA x IDFI「新興市場における革新的なプライベート・デットとフィンテック・インパクト投資」	132(107/25)	あり
11月28日	アジアにおける Climate&Social Innovation×Impact Investment(Temasek,JANPIA,ANRI,GLIN)	73(45/28)	あり
12月16日	COP30 報告会(PwCサステナビリティ合同会社)	162(オンラインのみ)	無

主催/共催イベント

日付	タイトル	備考
2月10日	ELT企画第5弾『金融業は環境社会課題解決を自分事化できるか?』トップ3者による座談会(JPX、SMFG、東大)	宣言主催

別資料

PwCプロボノ: 課題解決を起点とした取組 (地域 Japan Impact-driven Financing Initiative 金融分科会)

別資料

ビジョン: 金融機関が扱う資金の流れを可能な限りインパクト志向へと変革させ、
環境・社会課題を自律的に解決しうる持続的な資金循環を生みだしていく

アプローチ

(巻き込むステークホルダーと起こしたい行動変容)

現状課題

インパクト志向の
浸透が限定的

インパクト投資の定義の
曖昧さ・多様化による
ウォッシュの懸念

個社レベルのインパクト
投資の限界

①インパクト志向へ変革することへの納得感の醸成

- プレイヤーごとの行動変容のドライバーへのアプローチ
 - メインストリームの投資家やVCにおけるインパクト創出と企業価値の関係性の明確化
 - アセットオーナーにおけるシステムレベルリスクの理解浸透
 - 個人(消費者)における社会的アウトカムの可視化・・・等

②インパクトファイナンスの定義の拡大と質の引き上げ

- 広義を含むインパクトファイナンスの類型化と実践ガイドの整備による新規参加者の巻き込み
- IMMの先進企業の事例共有・形式知化による質の引き上げ

③社会・環境課題を軸としたアセットクラス横断の連携強化

- 社会・環境課題を軸としたアセットクラス横断のファイナンススキームの確立と事例創出(多様なアセットクラス、公的機関や非営利団体などの巻き込み)

アウトカム

裾野の拡大

IMM/情報開示・
対話の高度化

社会・環境課題
解決の加速化

主要テーマ	全体・事務局主導による主な活動・施策案	分科会
<p>①インパクト志向に変革することの納得感の醸成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ICEAにて引き続きインパクトと企業価値の関係性の仮説構築+CaseStudyを継続 ● AOAM分科会にて、βの低減を目指すインパクト投資の実践に向けた議論 ● 海外ゲストを招いたコンファレンスで、システムレベルリスク/システムミックリスクなどに関するセミナー開催をし、理解浸透・発信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各分科会が自主的に実施 ● それぞれ緩やかに中期計画と連家
<p>②インパクトファイナンスの定義の拡大と質の引き上げ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 算入基準のアップデートとPRにおける残高の公開 ● 「インパクト志向金融」の枠組み検討・公開 ● インパクトファイナンス人材向け研修の開始(委託・内製は今後議論) ● 新規加入・実務者向けコンテンツの充実(既存の資料に対するナビゲーションマップを作成) ● 多様なインパクトファイナンスの最新事例の共有・議論 	
<p>③社会課題を軸としたアセットクラス横断の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域金融を中心としたシステムチェンジ投資に関する事例収集+課題議論(PwC) ● システムチェンジ投資などに関するセミナー開催 	

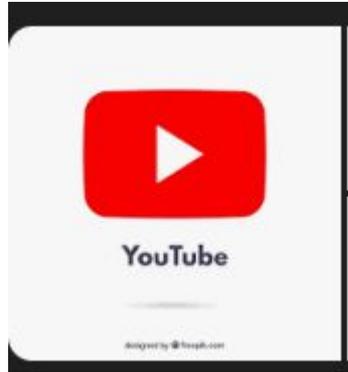
議論していただきたいこと

- これまでの報告(「インパクト志向金融の枠組み検討分科会」、「S指標分科会によるケーススタディ集」、PwCによるプロボノ)を踏まえたうえで、2026年はインパクト志向金融宣言としてどのような活動が重要となるか。特に以下2点を中心に議論をお願いします
 - 人材育成について
 - 課題解決のための金融の取組について

今後の予定、事務局連絡

- **今後のワーキングレベル会合**
 - 2026年 4月23日(木)
 - 2026年 7月23日(木)

オウンドメディア



インパクト志向金融宣言